

JAGFOSシンポジウムの概要

第6回JAGFOS参加研究者
社会文化科学学域石田友梨



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

JAGFOSとは？

Japanese-American-German Kavli Frontiers of Science Symposiumの略で、日米独先端科学シンポジウムと訳されます。日本の独立行政法人日本学術振興会（JSPS）、アメリカの科学アカデミー（NAS）、ドイツのアレクサンダー・フォン・フンボルト財団（AvH）が共催する若手研究者のための国際会議です。三カ国の持ち回りで年に1度の開催です。2026年はベルリンで開催される予定です。

二国間の日仏先端科学（JFFoS）シンポジウム、日英先端科学（UK-Japan FoS）シンポジウムなどもあります。

目的は？

若手研究者の交流です。

学際的な国際共同研究が生まれる機会になればとのことでした。

そのため、各分野の最新の研究についての講演が行われ、三食をともにする合宿形式となっているようです。

内容は？

初日に夕食とアイスブレイクを兼ねた歓迎会、2日目から4日目まで6つの分野の講演、その合間にポスター発表、分野ごとのワークショップ、美術館ツアーがありました。

講演内容は、Planning Group Member（PGM）と呼ばれる参加者たちが話し合い、各分野の最新の話題を決め、その話題について講演してもらえる若手研究者をスピーカーとして招待しているそうです。スピーカーは、次回のPGMもお願いされることが多いようです。

ちなみに私はPGMでもスピーカーでもなく、応募によって参加した参加研究者でした。参加研究者にもポスター発表の機会がありますので、自分の研究を紹介することができます。

参加の経緯

研究協力課からのメールで募集を知り、最先端の科学についての講演を聞くことができること、アメリカに行くことができることに惹かれ、[三澤弘明先生の説明会](#)に参加しました。私のような人文系の研究者でも参加できると知り、研究課題のひとつである死者AIについて、異なる分野や文化的背景をもつ方々の意見を聞く機会になればと応募することにしました。

参加した感想

ポスター発表でさまざまな意見をいただくという目的を果たすことができたので大満足です。自分の研究と関係するAIについての講演や、高校生の時に研究したいと思っていた海洋科学に関する講演もありましたし、このような機会がなければ触れることがなかった研究を知ることができたので楽しめました。会期中に参加者の指導教官がノーベル賞を取り、みんなでお祝いしたのもFoSならではの体験だったと思います。

また、JSPSが事前に日本からの参加者を集め、日本のスピーカーによる日本語講演と交流会を企画してくださるので、予備知識をもち、知り合いがいる状態で参加することができます。本番の会議でも交流という目的が参加者の間に共有されているので、初対面の研究者にも話しかけやすい雰囲気でした。